

『風と光』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

## 都留市・西桂町

### 「第26回 生徒の健全育成を目指す中・高連携連絡会議」

5月25日（火）、県立都留興譲館高等学校（小佐野景賀校長）において「第26回 生徒の健全育成を目指す中・高連携連絡会議」が開催されました。都留市と西桂町の中学校の校長先生方と都留興譲館高校の校長先生が一堂に会し、都留・西桂地区の「コロナ禍における各校の現状や取り組み、都留ブロックの中・高連携教育の今後」について情報交換と意見交換を行いました。

多くの中学校が、ここ数年の生徒数の減少によって教員数も減る中で、校内の組織改革に取り組んでいます。同時にコロナ禍でも子どもたちへのきめ細かい指導に力を注いでいることが報告されました。特に西桂中学校は、地域の教育への支援が厚く、一人一台PCの普及が進んでいることがわかりました。

高校からは、「生徒たちの心のケアとともに勉強と部活動の両立」を教育方針として教育活動を行っていること、8月28日（土）に中学生対象のオープンスクールを開催すること、9月の土日に数回、部活動体験を計画していることが報告されました。

コロナ禍であっても、部活動をはじめとして連携活動を継続していくことが確認されました。



## 上野原警察署 島田駐在所リニューアル

令和3年4月28日（水）、上野原警察署（佐藤充署長）所管の新築移転した「島田駐在所」の開所式が行われました。島田駐在所は明治34年10月に上野原駅の開設に伴い停車場派出所として発足し、地域の安心・安全の拠点として活動してきました。近年は、上野原駅南口周辺の再開発に伴い人通りや交通の流れが増加し、上野原市の玄関口として登山客や外国人への対応も必要となってきました。

原口駐在所勤務員は、「近くに小学校や幼稚園もあり、毎朝通学する子どもたちと挨拶を交わす中で、地域住民に親しまれる駐在所でありたい」また、「駐在所が発行する『ミニ広報紙』を通じて、地域の人々への情報発信を行い、地域を守る基点として地域力のUPに努めていきたい」と意気込みを語っていました。



# 子どもたちの教育は地域全体で担う!!

## 南都留地域教育推進連絡協議会 総会 書面開催

南都留地域教育推進連絡協議会では、令和3年度の総会・講演会を6月16日(水)に「勝山ふれあいセンター」において開催する予定でしたが、県内の新型コロナウイルス感染者の急増による長崎幸太郎県知事の「不要不急の外出自粛、イベントや会議等の延期・中止の要請（臨時特別協力要請）」を受けて、書面による開催に変更しました。

もともと理事会は新型コロナ対策のため「書面開催」として当日は時間を短縮し、出席者数を制限する中で開催する予定でした。書面による理事会・総会では、コロナ禍にみまわれた昨年度の事業報告・会計報告・監査報告の後、本年度の役員について新役員が承認されました。

令和3年度 南都留地域教育推進連絡協議会 会長・副会長

会長 鬘櫛 利和 (南都留地区校長会 会長：都留第二中学校 校長)  
副会長 小俣 義一 (富士河口湖高等学校 校長)  
副会長 古屋 勇人 (吉田高等学校 校長)  
副会長 小野 将史 (県立高等学校 PTA 会長：富士河口湖高等学校 PTA 会長)  
副会長 前田 安正 (南都留地区小中学校 PTA 連絡協議会会長：都留文科大学附属小学校 PTA)  
副会長 柏木 俊之 (富士吉田商工会議所 専務理事)  
副会長 堀内 忠治 (南都留市町村教育委員会連合会 会長：忍野村教育委員会 教育長)  
副会長 鈴木 孝子 (南都留地区女性団体連絡協議会 会長：南都留地区更生保護女性会 会長)

### 高校生が地域の課題を解決するアイデア発表会

## 富士北稜高校×富士吉田市(かえる舎)

「地域に貢献する人材」を育成するために富士吉田市と県立富士北稜高等学校(塩入由里校長)は、5年前より地域包括連携協定を結び、毎年地域に関する授業を実施しています。今年度は、高校2年生の「総合的な探究の時間」において、地域の10の分野に関わる事業の方から「高校生と一緒に考えたい問い・課題」を提示していただき、高校生が課題を解決するアイデアを考え、提案・実行することを行っています。

6月18日(金)は、高校生が地域からいただいた課題を解決するアイデアをプレゼンテーションし、各分野の講師からフィードバックをいただく授業でした。分野ごとのテーマ(課題)は、次の通りです。



- 《観光》「富士吉田の文化を活かしたうどんメニュー開発」道の駅
- 《健康》「若者が朝ごはんを食べるようになるための取り組み」市健康長寿課
- 《歴史》「5地区の歴史や特徴を調べ、次の世代に楽しく伝える方法」ふじさんミュージアム
- 《育て》「子育て支援センターの若者の活用方法」市子育て支援課
- 《地域福祉》「共同募金の使い方と集め方」市社会福祉協議会
- 《産業》「この街の地場産品(織物)の身近な活用方法の提案」地域おこし協力隊
- 《文化》「高校生が行きたくなる図書館を作るための取り組み」市立図書館
- 《交通》「地域に必要とされるバス会社とは」富士急バス
- 《防災》「小学生向け火山カルタ作成」市安全対策課
- 《自然環境》「ポイ捨てを減らすためには～森や田畑などの自然を身近に感じるためには～」  
粟井英朗環境財団

地域で働く人と高校生が授業を通じて語り合い、課題の解決に向けて真剣に取り組む様子は「子どもたちの教育は地域全体で担う」姿の一端を感じました。

※「NPO法人かえる舎」は、地域と学校を連携して若者が地域の未来を考え、変えていくことを支援しています。

## 富士山学習研究会 点から線、線から面へ

富士河口湖町立教育センター（梶原斉所長）は4月16日（金）に富士河口湖役場において、第1回富士山学習研究会（研究員会）を開催しました。

これまでの富士山学習研究会の活動の成果と課題を確認した上で、今年度の方向性として、これまでの研究テーマである「世界文化遺産である『富士山』を児童生徒に伝えていくための授業実践をどう進めるか」を継続進化させ、特に富士山科学研究所との連携による「防災学習」の普及と高学年向けの新プログラム開発に向けて活動を行っていくことが確認されました。

研究会の後半では、学習会が行われ、富士山世界遺産センター、富士山科学研究所、富士河口湖町地域防災課、ケーブルテレビ河口湖の皆さんに講演をしていただきました。特に町の防災担当の渡辺大介氏からは、防災学習プログラムを修了した子どもを「町のジュニア防災士」に認定することも検討しているという提案がありました。



## コロナに負けるな 道志中 リモート学習



道志中学校（杉本賢二校長）では、アメリカ ロサンゼルス在住のALTのアナ先生が、コロナ禍の影響で日本に帰ってこることができず、今年度はZoomを活用した授業を行っています。

5月17日（月）に訪問したところ、今回の授業では挨拶などのやりとりの後、アナ先生の家族がBBQを計画し、バーベキューセットやタコス作りの様子を映像で説明しながら、生徒たちとの会話を行っていました。

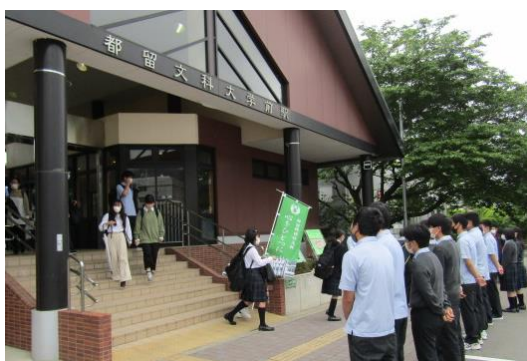


英語教師とアナ先生、アナ先生と生徒、生徒同士と様々なスタイルのコミュニケーションが行われ、現実のアメリカの生活をリアルタイムで感じられるものでした。生徒たちも身振り手振りを交えながら、既知の知識のなかで意思の疎通を図ろうと主体的に活動していました。

既存の機器「ビッグパッド」とPCを活用することで、海外に住むALTの文化に触れ、生徒の知的好奇心を刺激する授業となりました。

## 都留興譲館高校

## マナーアップ・あいさつ運動



県立都留興譲館高校（小佐野景賀校長）では、県下で行われている気配り思いやりマナーアップ運動と共に、駅周辺及び通学路の清掃やあいさつ運動を駅前や校門前等で行っています。

5月19日（水）には、生活委員や保護者の方々が電車で到着する方にあいさつを行い、到着の合間に周辺のゴミ拾いを実施しました。また、20日（木）には、生徒会本部の生徒たちが、校門前であいさつ運動を行いました。



## コロナに負けるな アスリート実技講習会



5月8日(土)晴天の中、大月市営陸上競技場で第1回アスリート実技講習会が開催されました。

当日は小学校2年生～中学生まで約70名の子どもたちの参加がありました。最初に全体でウォーミングアップを行い、身体をほぐした後に、参加者が6種目(短距離・長距離・ハードル・走り高跳び・走り幅跳び・ジャベリックボール投げ)の中から好きな種目を2つ選び、競技の基本を学びました。

特に短距離では、初回ということでスターティングブロックを使い、クラウチングスタートの仕方を練習しました。スタートの姿勢、合図に素早く反応し、低い前傾姿勢を保ちながらのスタートダッシュを何度も繰り返していました。

第2回(6月20日)は、感染拡大によるイベント等自粛要請に伴い、中止しました。



## コロナに負けるな シオジ森の学校 (探鳥会)

5月22日(土)前日の雨が上がり、野鳥の賑やかなさえずりの中、早朝に大峠入口に参加者たちは集合しました。まず、朝食を広げて腹ごしらえをした上で、山中に分け入りしました。

今回の目当ては、日本三鳴鳥(さんめいちょう)の「ウグイス」「オオルリ」「コマドリ」の鳴き声を聞くことです。山に入る前に、それぞれの声をボイスレコーダーで予習していたおかげで、参加者はみんな、聞き分けることができました。また、「ヒガラ」「コガラ」「ミソサザイ」の声も聞くことができました。

参加した子どもたちも、終わりの会で鳴き声当てテストに元気よく答えていました。久しぶりに大自然の中で身体を動かすことができる機会となりました。



シオジの森入口 参加者集合写真



大峠からの富士



## コロナに負けるな 上野原市立図書館 屋上庭園

5月15日(土)から上野原市立図書館の屋上に開館当時から設けられていた「屋上庭園」がリニューアルされ屋外読書や飲食ができる休憩場として利用できるようになりました。今後は季節や天候に応じたイベントを企画していく予定です。

市の社会教育課図書館担当リーダーの池田忠利館長によると、「3年程前の市図書館協議会の中で『屋上庭園の有効活用』について話し合い、利用者にアンケートを実施した結果、『飲食や野外読書、休憩場所』の要望があり、昨年図書館事業への活用を目的とした寄付を頂き、『天然芝、転落防止用の柵、テーブル・イス・パラソル等』の設置をおこなった」と経緯を話していただきました。

毎月第3土曜日には「青空おはなし会」を実施しています。



青空おはなし会



# 山梨県立産業技術短期大学校 都留キャンパス 小中学生向け出張授業のご案内

産業技術短期大学校は、「ものづくりとホスピタリティ」を教育理念として、機械・電子産業、情報通信業等を支える人材や観光旅行業を担う人材の育成に向けた様々な授業を行っています。

都留キャンパスでは、当校教職員が小中学校に出向き「出張授業」を実施いたします。「ものづくり」の仕組みや面白さを伝え、小中学生のキャリア教育に役立てていただきたいと思います。

※下表は一例です。この他にも御要望により検討させていただきます。

### 【問い合わせ先】

県立産業技術短期大学校 都留キャンパス  
教務学生担当

Tel:0554-43-8911 Fax:0554-43-8919

〒402-0053 都留市上谷5-7-35

### 令和3年度 小中学生向け出張授業一覧

No.	教科等	内容
理科(実験)	3Dプリンターってなに？(3Dプリンターの仕組み説明と、デモンストレーション) 【小学校高学年・中学生向き】	連絡後調整
理科(実験)	大きな力を出す方法(ねじを使って、力を大きくする方法を体験的に学ぶ) 【小学校高学年向き】	連絡後調整
理科(実験)	温度を測る。(熱電対を使った測定) 【小学5・6年～中学生向き】	連絡後調整
理科(実験)	てこの原理などを器具や道具を使いながら学習する。【小学5・6年向き】	連絡後調整
情報	あんどくん『プログラミング教室』 スクラッチで『ドロ〜ン』を飛ばそう♪ 【小学5・6年向き】10名まで	連絡後調整

### 令和3年度 小学生向け出張ものづくり体験塾一覧

科目	内 容	定員
工作	よく飛ぶ紙飛行機を作ろう！ 低・中学年が対象です。	10～20名程度
工作	オリジナルグラスを作ろう 各自透明なグラスを1個用意してください。 (百円ショップのもので結構です。) 高学年対象	10名程度
金属工作	金属の鏡面仕上げ	10～20名程度
電子工作	風車でLEDを光らせよう。	10名程度
電子工作	おうちでできる『あんどくん工作シリーズ①』 電子工作で『あんどくんLEDランタン』をつくろう♪ 説明書をみながら自分でつくる『工作キット』だよ！	10セット
工作	おうちでできる『あんどくん工作シリーズ②』 ペーパークラフトで『あんどくん』をつくろう♪ 説明書をみながら自分でつくる『工作キット』だよ！	30セット

### ☆オープンキャンパス〔来場型〕実施日程：都留キャンパス

7月25日(日)、8月29日(日) 時間 10:00～12:00

### ☆個別見学会(希望学科の施設見学、授業見学など)

→事前申込制(ホームページ又は電話にて申し込んでください)



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めてまいります。各事業についてご意見ご要望、地域連携活動の情報がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ 0554-45-7841



## コロナに負けるな 小菅村保育所（自然遊び教室）

5月20日（木）に小菅村保育所（木下さとみ所長）では、NPO 源流大学の盆子原武尊さん（他協力隊2名）を招き、畑作業と遠足を兼ねた自然遊び教室を行いました。

保育所の隣にある畑をお借りして、ジャガイモを植えました。子どもたちは、長靴・手袋を着用し、指導の先生の指示に従って土と戯れていました。



その後、天神山からヘリポート付近まで遠足を兼ねてお散歩をしました。シートを広げてお弁当をみんなで食べました。畑作業や遠足で身体を動かしたせいか、口いっぱいにはおぼっていました。

自然とふれあった9人の園児たちは、夏の取り入れ作業を待ち遠しく思っているようでした。

## 南都留特別支援教育研究会

5月20日（木）、富士吉田市民会館において「第1回 南都留特別支援教育研究会」が開催されました。今年度の活動計画の確認と「第21回山梨県特別支援教育研究大会（8月16日：甲府市民総合会館他）」の富士・東部地区のレポート提案者の選定が行われました。

第2回は6月29日（火）に、河口小学校の小佐野あや先生の県の研究大会に提出予定のレポートをもとに、支援学校（ふじざくら・やまびこ）の先生方をアドバイザーとして参加者の学習会を開催しました。特に支援の場における疑問や悩みを共有し、専門的な知見からの学びを深めることができました。

また、「青い麦の子大会」について話し合いがもたれました。9月24日実施予定の湖畔忍山ブロックは新型コロナの影響もあり中止となりました。9月29日の吉田ブロック（雨天中止）および10月1日の都留西道ブロック（雨天決行）は、感染症予防対策を行った上で、実施する予定です。



## 未来を拓く！ 高校生インターンシップ推進事業 地域連絡会議



5月17日（月）に県総合教育センターにおいて、高校生インターンシップ推進事業地域連絡会議の全体会と地域連絡会議が開催されました。

全体会では、インターンシップの昨年度の状況や本年度の事業計画、高校新卒者の就職内定率・求人状況等の説明の後、山梨労働局や山梨県中小企業団体中央会、県産業労働部労政雇用課から説明がありました。

富士・東部地区の地域連絡会議では、インターンシップ等担当者による今年度の就職希望者、各校の実践状況や課題が発表されました。各学校の特色に応じた体験活動の状況や新規受け入れ企業の開拓における課題、看護体験・医師体験の実施状況など様々な意見交換がされました。

ハローワーク富士吉田の渡邊亜矢子就職支援ナビゲーターからは、「コロナの影響を受けた一般求人の減少と、業種により好不調に差がでている状況」が報告されました。

インターンシップも含め、各学校の特色に応じたキャリア教育の充実と高校生が将来を考え自己を知るきっかけとなる活動の重要性が、確認されました。



# コロナに負けるな ローカルディスタンス



新型コロナウイルスの感染が広がる直前、メンバーが移住していた大月へ仲間たちと移住を決断しました(2020年4月)。「ワーケーション」の先駆けですね！近所からお米や野菜をいただいたり、大家さんと登山に行ったり、農業をやったりしています。

都会暮らしとのギャップの中で不安もあった私たちは、「いなだや」のしげるさんと出会い(5月)、大月の課題や悩みを聞いて地域創生の活動を開始しました(6月)。

まずは、大月市の魅力を動画投稿サイト「ローカルディスタンス(LD)」で「大月市全員をYouTuberにする！」を目標に配信を始め(7月)、10月には「街あかりイベント」プロジェクトを開催しました。また、数日の移住体験ができる場所、大月市の魅力をあらゆる角度から発信する「大月ラボ」(夢を叶える環境)を作りました(11月)。そして今年3月15日には笹子に「アフロCafé」をオープンしました。



メンバーそれぞれが、得意分野を活かして地域の課題に取り組んでいます。私たちの活動を理解していただいている行政や議員の方、市長さんや観光協会、一番は地域の方々に感謝しています。大月は「将来性のある街」「大手企業はないが東京の近く、日本一を獲れる可能性を秘めた美しい自然のあるところ」です。「新しい地域創生、『大月モデル』を完成し、大月から世界へと広げたい！」が私たちの目標です！！

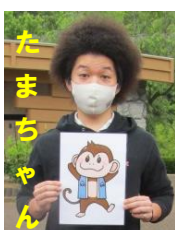
## サステイナブルな河川環境を守る 大月桃太郎ゴミ退治

5月16日(日)に猿橋公園周辺の桂川河川敷において「大月桃太郎のゴミ退治」が実施されました。ローカルディスタンスの企画運営の下、桂川漁業協同組合・猿橋地区・大月短期大学・大月市観光協会・大月桃太郎会・大月市が主体となり、一般の参加者も含めて、70名程が参加しました。

当日は、あいにくの雨ではありましたが、4グループ(桃太郎・猿・鳥・犬)に分かれ、参加者全員が「ゴミ退治軍手」を装着し、「桃太郎ゴミ退治シャツ」を身にまとったリーダーの指揮のもと、桂川の対岸や断崖、河川の斜面にも果敢に挑み、トラックいっぱいのごみを退治することができました。

上流から流れ着くゴミの多さに、参加者は驚きながら、山や川などの自然の恵みと環境を今後も持続させていくためにも流域に住むものの意識改革を感じました。

次回は、秋(10月初旬)に実施します。



# 大月 ももたろうプロジェクト (vol. 2)

桃太郎を基軸に、さまざまな街おこしの取り組みを紹介します。

## 〔大月モモタローソン：ローソン大月一丁目店〕



大月の町中に「モモタローソン」がオープンしました。これまでも南アルプス市や富士川町にインフォメーションスペースを有したローソンはありましたが、外装・内装共に大月桃太郎伝説にラッピングされた店舗は、県内初のものでした。

株式会社ローソンでは、近隣の方々が使いやすい店作りをテーマに地域に根ざし、地域の活性化に貢献できることを目指しています。今回も大月市が掲げる観光PRに協力し、富士山観光の玄関口である大月一丁目店に、ももたろう関連グッズを含めた山梨県のお土産コーナーを常設しました。



黒川オーナーは、「大月で生まれ育ち、この町が大好きな私が恩返しの意味も込め、この店を一つの基点として地域を盛り上げたい。」と意気込みを語っています。

昨今、コンビニエンスストアも多様化し、地域に密着し、地域や利用者のニーズを敏感に感じ取るが必要となってきました。

🍑🍑🍑 「ももたろう×ローソン」のコラボに今後も注目です 🍑🍑🍑



大月桃太郎伝説の里めぐり MAP



## 🍑🍑🍑 〔大月桃太郎課 誕生！〕 🍑🍑🍑

4月1日(木)、大月市役所花咲庁舎に「桃太郎課(別称)」が誕生しました。地域に語り継がれている桃太郎伝説で観光業の盛り上げを進める大月市では、機構改革の一環で産業観光課の別称として「大月桃太郎課」を発足させました。

花咲庁舎にある産業観光課には、桃太郎の手作り装飾がされた「大月桃太郎課」と表示された看板が掲げられています。志村隆夫課長は、「桃太郎は『明るく健康の象徴！』です。桃太郎のパワーを借りて、健康の源となる『食』『休養』『運動』により、大月ならではの観光や産業を盛り上げていきたいと思っています。今後は『健康長寿 桃太郎 の里 大月』の産業観光課としてイベントも含めてPRしていきたい。」と述べていました。



## 🍑🍑🍑 〔大月市長から書籍紹介〕 🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑🍑



### 『桃太郎は盗人なのか?』 倉持よつば 著 発行：新日本出版社

2018年度「図書館を使った調べる学習コンテスト」で文部科学大臣賞を受賞した著者の倉持よつばさんは、小学校5年生の時に一冊の絵本『空からのぞいた桃太郎』の帯に「鬼だから殺してもいい?あなたはどう思いますか?」と書かれた言葉と出会い、「本当にそうなのか」と思い、「調べ学習」に取り組みました。

大月市長は、「大月市にも『大月桃太郎伝説』があり、子どもたちが郷土の話に触れる中で、あたりまえと思っていたことにふと感じた疑問をそのままにせず、自ら一歩踏み出してみることは、これからの社会を生きるためにとっても大切なことです。ぜひ親も子も一度読んでみて、家で話すきっかけにしてみてください。」と推薦しています。